

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2 県土水産資源調査)

向井哲也・曾田一志

1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、エッチュウバイの資源生態およびばいかご漁業の漁獲実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行なう。これにより本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

解析に用いた資料は、ばいかご漁業漁獲成績報告書と漁獲統計資料(大田市漁協、和江漁協、仁摩町漁協、平田市漁協)と各漁業者に記入依頼を行なっている操業野帳である。これらの資料をもとに、漁獲動向、エッチュウバイの価格動向および漁場利用について検討を行なった。

(2) 資源生態調査

大田市漁協、和江漁協ならびに仁摩町漁協に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、この結果と銘柄別漁獲箱数からエッチュウバイの殻高組成を推定した。また、村山ら¹⁾が求めた Age-length Key を用いて漁獲物の年齢組成を求め、漁獲率の推定を行なった。

3. 研究結果

(1) 漁獲動向

平成17年の総漁獲量は81トン(前年比77%)、総水揚金額4,295万円(前年比79%)、稼働隻数6隻、総航海日数188日(前年196日)であった。うちエッチュウバイは65.1トン(前年比81%)、2,885万円(前年比85%)となっている。

(2) 資源状態

資源状態の指標となる1隻1航海あたり漁獲量は平成12年以前は500kg/航海程度で比較的安定していたが、平成12年以降下降を続けており、平成17年漁期は346kg/航海にまで低下した。平成17年度は漁期前半に潮流が速く漁獲効率が悪かったことも要因の1つと考えられるが、石見海域におけるエッチュウバイの資源状態はかなり悪化しているものと考えられる。

4. 研究成果

- 調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばい部会の資源管理指針として利用されており、これを元に漁業者が自主的に漁獲量の上限を定めるなどの資源管理が行われている。

5. 文献

- 1) 村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書(平成4年度)、64 - 69(1991)。